

報告書「第三回 阪大院生 知の横断」

概要

日時: 2017年11月3日(金/祝) 14:00 ~ 17:30

場所: 基礎工学国際棟ホワイエ

対象: 中高生以上(中高生、学部生、院生、一般の方)

目的: 異分野交流、アウトリーチ活動

後援: インタラクティブ物質カデットプログラム

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム

宣伝方法

高校への宣伝

- ポスター・プログラム 各 35部を関西圏の中学・高校 62校、学習塾 13校に送付。
- 前回の参加者へのメール。

学内での宣伝

- 学内でのポスターの掲示。
- O+PAS での宣伝。

プログラム

トーク (14:00 ~ 16:40)

- 金木俊也(理学研究科 D1)
「地震研究の "今まで" と "これから"」
- 澤井未緩(人間科学研究科 M2)
「差別感情を科学する～部落問題を中心として～」
- 山崎修平(理学研究科 D3)
「シンプルな線虫を使って複雑な学習の仕組みを解明する」

フリーディスカッション (16:40 ~ 17:30)



澤井さんの講演の様子



山崎さんの講演の様子

主催した学生から

この度、昨年度から開催されている「阪大院生 知の横断」の第三回を開催しました。本会は、大学院生の異分野交流や中高生へのアウトリーチ活動を通して、参加者が将来の指針を得ることを目指しています。第三回では、地震・社会学・神経科学をテーマとした大学院生の講演が行われました。講演は中高生以上が対象で、各分野の意義や魅力を分かりやすく伝えてもらいました。参加者数は 51 名(うち中高生 18 名)であり、前回より減少しましたが、逆に質問が出やすい雰囲気になり、密な会になったと思います。実際に、高校生からも「人数が少なくてもアットホームで質問しやすくていいと思います」とアンケートで意見がありました。

参加者からは「分野の違う発表が多く、自分の視野が広がりました」「大学での研究とはこういうものなのかというイメージが付き、自分でもこういった活動を大学でしてみたいと思った」「貴重な話が聞けて良かった」という評価を頂き、異分野交流やアウトリーチといった目的は十分達成できたと考えています。一方で、開催時期についての意見や、宣伝の際にもっと高校生に働きかけて欲しいという意見も得られました。

今後、より多様な研究分野で活躍している大学院生に参加してもらいたいと考えています。そして、「知の横断」が異分野間の繋がりを築き、さらには阪大生が自身の研究を社会に発信するための場になることを望んでいます。

[実行委員]

横井雅彦(理学研究科 D1)

島谷二郎(基礎工学研究科 D1)

松浦友紀(理学研究科 D1)

伊藤駿(人間科学研究科 D1)

岩切秀一(理学研究科 M2)

秦徳郎(理学研究科 D3)

(文責: 横井雅彦)